RIPPLE SAILING CLUB
NO.148

月刊１９９５．０８．２３

RIPPLE

（発行）
リプル・セイリングクラブ
〒２３８－０３
神奈川県横須賀市長井２－１１－１
TEL 0468－57－1711

リプルカップアンドバーベキュー

我々セイラーにとって、受難の季節も終わり、長浜のまん中から出艇出来るまで後わずかですね。
待に待ったディンギーの世界がやってきます。
そこで、というより恒例のリプルカップを９月１０日（日）に行います。
スタートは１１：００。
まだまだ暑いと思われますので、ペットボトルなんかを積んで参戦して下さい。
尚、レース終了後はバーベキューを企画しておりますので、呑む人は電車でこちらに来て下さい。

すてきなオジサン見つけのロングクルージング

恒例になっております、伊豆七島巡りのロングクルージングも無事終了し、参加者全員は夏の良き思い出として、色々な風景や人情に触れ、有意義な夏休みだったのではないでしょうか？。
昨年までのクルージングに比べ、今年のクルージングは正にクルージングという感じでした。
特に最終日の大島波浮港からのクルージングは、追ってで２０ノット位のSの風の中、クオーターで相模灘を４回ジャイブを繰り返しただけの、正にかっ飛びセイリングでした。
艇速も、確認しているだけでも８．６ノットという、あの一昨年のどん吹きの中での７．４ノットをはるかに上回り、ＲＩＰＰＬＥ号の新記録を打ち立てたのである。恐らくサーフィングしている時なんかは、９．０ノットオーバーだったと思います。
また、今年の上架が延び延に、延ばされて、ロングに行く少し前だった事もあり、ベラ、ボトム共にピッカピカの性と、エンジンも要所要所のパーツの交換の性も有ってか、２GMに劣らぬ？（ちと言い過ぎか）６．５－７．５ノットの艇速が確保できました。つくづく日頃の整備の重要性を再認識いたしました。（そうなんです。会員さんが年一回しか乗らなくてもハイテンションの状態にしてある艇なんです。その辺の所、頭が良かったら理解して下さい。）
そして、今回のクルージングでちょっとかっこ良かったオジさんを紹介しましょう。
所は式根島吹の江、既に我々は艇速に助けられ早々、吹の江にアンカリングを済ませ、各々シュノーケリングなり昼寝なりをしていた時である。
勇に４０Ｆｔは越えると思われるスループ艇がスルスルと吹の江に入港してきたのである。
このての艇は大概、若い兄ちゃんが何人か乗っていて、アンカリングなりをするのが普通であるが、恐らく５０歳を越えた、白髪、チビ、デブ、のオジさんが一人でバウアンカー、スターンアンカーを見事にこなし、悠然と海水浴を楽しんでいるのである。
そして、デッキにはどーみても娘はおろか、親戚の娘さん、もちろん妻では絶対無い、妙麗な女性が上品な麦藁帽子をかぶり、上品なサングラスを掛け、上品な水着をまとい、まるで、オジさんが吹の江の中ではなくその女性の手の平のなかで泳いでいるかのように、いかにも満足そうに、時間を費やしていたのである。
うーむ、俺もあの様に年を取りたい。と思ったのは私だけだったのだろうか。
荒天の中ティラーを握っていた小池、増田、汗をかきながら１１名の食事を造った秋葉、盛り上げようと必死だった豊田、檜山、酔っぱらいのオジさんにオシッコをかけられ次の日何も言わなかった高田（後で聞きましたすいませんでした！）、出航の時、野菜、ウイスキーの差入れをしてくれた長崎オバさん（失礼）。みんなの力で成し遂げた今年のロングクルージング。
皆もそうであった様に、今年のロングクルージング、バンザイ！。そしてありがとう！。

かくれ釣りファン情報

いよいよここ長浜近くにも、通称いわゆる青物と呼ばれる魚種が入って来る季節になりました。
セイラー&フィッシャーマンとしてはこの季節を見逃す手は有りません。
もちろん釣り船、あるいは船外機付きのボートで行っても構わないのであるが、セイリングしながら釣れてしまうという醍醐味を経験してみたらどうでしょうか？。
先ずそれには曳釣りの道具を買わなくてはなりませんが、大きく分けて３種類。
その１　道具が表面をはって行くもの。（飛行機、赤玉（私が命名））
その２　道具が水面を潜って行くもの。（数々の潜行版）
その３　その１とその２を繰り返し行うもの。（爆弾（漁師が命名））

各々狙う魚種によって道具が変わるのですが、専門的に狙うのではないし私の経験から言うと、これを狙おうと思っておったが、違う仕掛でしかかからないといわれておった魚種がかかったりする所を見ますと、余り神経質にならなくても良いと思います。
そこで我々ディンギー派としてはその２は（これが一番良いと思うのですが）潜行するためかなり摩擦抵抗が大きく、艇速に影響が出てきます。
またその３はかなりのハイパワーでないと引っ張れませんし、また機能が発揮しません。
そこで推薦は、その１の赤玉（もう一度言いますが私が命名、そのての店に行けば一目両全）でOKだと思います。
これは艇速が有れば浮いて来るし、余り艇速がないとそこそこ沈みますが抵抗になるほどではありませんし、風によってはかなりの水深まで探れるとういメリットがあります。
この夏休み、だまかされてやり出し、虜になってしまった谷後氏などは初日に取り込みを失敗して痛恨のバラシをしたものの、とてつもなくでかいのをヒットさせています（形は見てないので魚種の選定できず。恐らくワラサではないかと思われます）、２回目にはシイラをヒットとコンスタントに、数を伸ばしつつあります。
９月になれば、ソウダ、ヒラ、本ガツオ、シイラ、大型の鯖、丸まる太った天然イナダと、なんと言ってもメジマグロ（本鮪の子供、これは旨い当り前か）ｅｔｓとちょっと沖へ出ただけで、そこは水族館の様になっておるんです（ホントだと思う）。
リプル号で出艇した時は必ずスターンから流すのであるが、かなりの高い確率でヒットさせています（上記の魚種は全てクリアー）。また、今回のロングクルージングではカツオを３本ヒットさせ、味噌汁にして食べたあの味は忘れられません。
さて、ここで皆さんが侵し易いミスを挙げておきますが、キャッチアンドリリースで有るならば問題はないのですが、キープしようと思ったら必ず氷詰めにしないと足が早い魚種ですので、もたもたしていたら、食したところ大当り、なんて事になりかねませんので注意をして下さい。
それと、差し網のブイの近くでの回り込み、タック等は道具を取られますのでこれも注意です。
さー、秋空の元、どんな魚種が来るか。大物を狙ってのセイリング、ちょっと面白いんではないですか。ほんの１カ月半位の遊びですが、皆さんも是非トライしてみて下さい。
特に鳥山を見つけたら、突撃ですね。１００％に近い確率で大物に出会えます。